

授業科目 解剖学実習Ⅰ

【担当教員名】 西野幾子、山口康昭、山田まりえ	対象学年	1	対象学科	スホ
	開講時期	前期	必修・選択	選択
	単位数	1	時間数	30

【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】
 交連骨格標本、分離骨標本を用いて、骨格系を立体的に理解する。
 関節機能模型、人体骨格標本などを用いて、関節・靭帯系を理解する。
 人体模型標本、人体骨格標本などを用いて、人体、特に筋系を理解する。

【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞】
 1. 全身の個々の骨を見分け、身体のどこにどのような方向に位置しているかを説明できる。
 2. 骨の全体の形・概観・大きさ・重さ・質感をよく理解する。
 3. 骨の区分（体、端、縁、面など）を理解する。
 4. 骨の各部分の形（突出物、くぼみ、孔など）を概説できる。
 5. 主な関節を構成する骨、それらに付随する靭帯を観察・スケッチし、それらの名称と位置を説明できる。
 6. 上肢・下肢の筋を観察・スケッチし、それらの名称と位置を説明できる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	解剖学実習Ⅰの概要とオリエンテーション		実習
2	骨学実習 交連骨格標本、分離骨標本を用いた主たる骨の観察とスケッチ	1	"
～6		～4	
7	関節・靭帯学実習 各関節の関節模型・関節機能模型の観察とスケッチ	5	"
～9			
10	筋学実習 上肢・下肢の筋の観察とスケッチ	6	"
～14			

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書 (必ず購入する書籍)	入門人体解剖学	藤田恒夫 南江堂	2000年	5000円
参考書	線描 骨学実習	千葉正司 考古堂	2001年	3500円
その他の資料	実習書の配布			

【評価方法】 実習態度、出席状況、スケッチブック、筆記試験の総合評価	【履修上の留意点】 標本の数により全員が同じ順序で実習することは不可能なので、説明をよく聞くこと。 スケッチブック（指定）と色鉛筆が必要。実習はやり直しができないので、欠席をしないこと。 定員50名。1回目のオリエンテーションを受講しなかった者は選択不可。
---------------------------------------	--